

第1分	看護観(江刺家)
解説	○看護は、人々がより健康的に生きることを支える仕事のひとつである。つまり、個人との相互作用関係の中で、その人がそのときその持てる力で、その人らしくよりよく生きることを手助けする人間的かつ専門的な援助の営みである。 ○それは、患者その人に向かい合ったナースが、そのとき、どのような判断をするかによって看護がスタートし、そのときの患者のその人・その時の状態・立場・気持ちに沿って、その状況の必要性に応える看護技術を使って看護がすすめられ、患者その人にとっての新しい、しかも望ましい変化が、その人の力によって築き上げられることで看護の目的が実現する。 ○このプロセスにおいて、ナースは、いつでも他人の為に判断・行為する立場に立って援助のかかわりを行うことになるから、ナースの判断・行為が、その患者その人に、いったいどのような意味をもたらしているかが、絶えず問われる。 ○ここに、看護することの難しさの構造を見ることができるし、そこに看護の専門性が問われる理由がある。
	○では、患者その人に向かい合ったときのナースの判断は、何を「目安」にして行えばよいのか？また、ナースの判断・行為が、患者その人に、今、どのような意味をもたらしているかを判断するのは、何によって可能になるのだろうか？ ○それは、ナースとして専門的判断をする「ものさし＝基準」を持つことであろう。 ○その「ものさし」がナースの概念的知識や経験的知識であるとするれば、ナースの数だけ「ものさし」が存在することになるので、ナースによって判断の内容が異なってしまう。 ○様々な考え方の中から「ナースであれば最小限、これだけは一致している」という「ものさし」が必要であり、その「ものさし」を使ってすべてのナースが判断することで、同じ視点と同じレベルの判断を導き出すことができる。 ○ここでは、ナースとして、これだけは一致している基準を、看護カンと呼ぶ。
	○看護カンとは、看護の専門化であるナースが、ここの患者その人が必要としている援助を判断するとき、あるいは、必要な看護行為を選択するとき、相互作用関係の中で、患者その人の状態・立場・気持ちに沿って、その状況の必要性に看護技術を使って、援助に取り組むとき、そして、ナースの判断・行為が、患者その人にどのような意味をもたらしたか評価するとき、その患者への看護の全的責任を担う歳に、すべてのナースが共通して使う判断基準であり、すべてのナースの看護活動に用いる羅針盤といえる。
	○看護の対象は、固有のすごし方で生活している個人であるから、その判断基準も、全人的な見つけ方、捉え方を踏まえた基準でないと困る。 ○第1に、患者その人を「見る」時の基準である。看護するためには、ナースは、専門的知識を使って、今の患者その人の状態を客観的に理解しようとする場合の基準である。これは、ナーシングスケールであり、看護観と捉えられるものである。たとえば、●疾病がもたらす共通性は何か？●加齢がもたらす共通性は何か？●生活の変化がもたらす共通性は何か？など、これらを問う歳に用いる判断基準である。 ○第2に、患者その人を「感じる」「こころを動かす」「気持ちをわかる」時の基準である。すなわちナースは、自分の認識において、向かい合う患者その人に関心を注ぎ、相手の市に自分を移し、その立場からそのときのその人の思いを感じ取ろうとする場合の基準である。これはナーシングセンスであり、看護感と捉えられるものである。たとえば、●もし、自分がその人だったらどのように感じるか？●それは私ではなく、その人なのだが？●改めて、その人は何を感じ、何を思っているのか？など、これらを問う際に用いる判断基準である。 ○第3に、患者その人への看護を「考える」「調べる」時の基準である。すなわち、その人に対して、ナースである自分は、何をすることがその人を支えることになるかを意思決定する場合の基準である。これは、ナーシングスキルであり、看護勘と捉えられるものである。たとえば、●今、医師は何をねらっているのか？●ナースとして積極的にする必要のあることは何か？●ナースとして避けなければならないことは何か？など、これらを問う際に用いる判断基準である。
	○一貫した対象の見つけ方を身につけるための基本概念(薄井坦子氏 S61,全国看護セミナー) 看護とは、人々の生命力の消耗を最小にするようすべて(生活過程)を整えることである。人間とは、認識(精神)をもつ有機体(物質)が、社会関係の中で互いに作り作られる諸過程の統一体である。生活とは、24時間の繰り返しの中でつくりつくれる人の生存様式である。すなわち、人間が自己の脳に支配されて、他の人間と直接的・間接的な社会関係を維持しつつ営む生存過程そのものである。健康とは、ホメオダイナミクス(変化の中の調和)である。すなわち、人間がその生活過程において、持てる力を最大限に活用できている状態である。健康障害とは、統一体の調和を保つ働きが乱され、自力で調和を取り戻すことが困難となった状態である。すなわち人間の回復過程である。
例題1	生きていくうえで、人間にはどのような能力が備わっていると思うか？

回答	内部環境の恒常性を維持する力 外部環境へ適応する力 基本的ニードを自立的に充足する力 ADLを自立的に維持する力 自己のコーピングでこころのバランスを維持する力 役割を自覚し、自分なりに遂行する力 目標達成に向けて主体的に行動する力 学習する力 意味を見出し、自己実現に取り組む力 問題を解決する力
例題2	病気などによって、その能力の一部が障害されたときの個人の置かれる立場・思いの特徴は何か？
回答	恒常性の調和の乱れが生じ、自力で修復できず、苦痛や不快を体験する。また、生命も脅かされ、恐怖感や孤立感に襲われる。 身体的痛み・精神的痛み・社会的痛み・宗教的痛みが統合されて、一つの痛みとして本人を襲い、生命力を消耗させる。 自己と環境とのずれを体験する。すなわち、入院生活により生活のリズムの変更や新しい適応を余儀なくされ、困惑や苦悩を体験する。 ADLが自立できず、不便さや不自由さを感じる。 緊張・フラストレーションにより、深い情動を抱き、自力での葛藤処理が困難になる。 社会的役割を失い、受動的生活を余儀なくされる。その体験から、自己の存在感や充実感が感じられず孤独感に悩む。 安楽・安心が妨げられることで、苦痛緩和のニードが強まり、自分の直面する状況や立場を正しく見つめられなくなり、肯定的自己受容が困難になる。 他人への関心が弱まり、自分への関心が強まる。さらに自分への関心を他人に求める傾向が強まる。他方、我慢・遠慮・気兼ねなどの内制止が働き葛藤する。 自分の力で自分なりに行いたいこと、他人に手助けしてほしいこと、これらの思いを強く抱くが、それを言葉でストレートに表現できず、その葛藤している思いをわかってもらいたいとのニードを満たす行動を意識的・無意識的にとる。
例題3	「看護とは何か」ナイチンゲールは看護覚書の中でどのように述べているでしょうか。
回答	「何かについて使命感を抱くとはどういうことであろうか？それは、何が＜正しく＞何が＜最善＞であるかというあなた自身の高い理念を満足させるために仕事をすることであり、もしその仕事をしないでしたら“指摘される”からするのではない、ということではなかろうか。」と述べている。 看護者としての使命感を持つということは、「看護という仕事をして生きている」のではなく、「看護という仕事をすべく生を授けられた」、あるいは、「看護という仕事をする中で生かされている」という意味をもつのである。すなわち、看護するということは、看護を生きることに他ならないということである。
例題4	看護者が使命感を持って仕事をするとはどういうことか
回答	理念とは「何を最高のものにするかについての、そのものに関する根本的な考え方」である。よって、看護者が使命感を持って仕事をするということは、「看護者である自分は何をすることで看護者であると誇れるかを考えて仕事をする」ことである。 看護者が仕事をすれば看護になるのではなく、看護を実践するために努力し続けることが必要である。
例題5	「看護とは何か」を看護理論をもとに考えていく大前提として忘れてはならないことは何か
回答	看護とは、病む人の幸せを願い努力し、やむ人の少しでも多くの安全と安楽を願って生き、仕事することが役割である。
例題6	フレックスナーは専門職の上辺のひとつに「利他主義」であることを挙げています。「利他主義」とは何で
回答	利他主義とは、看護する対象である病人(他人)が幸せになることで、看護者としての喜びを感じられることである。
例題7	看護理論と看護実践との関係について書きなさい。
回答	理論とは、「個々の事実や認識を統一的に説明し、将来の実践の指針となりうる、かなり高度な普遍性を持つ体系的な知識を意味する。これは実践によって検証されていることを必要とするものであって単なる仮説でなく、また実践に基づいて発展する点で固定した教条と区別される」つまり、理論を導き出すものは実践である。
例題8	ローズマリー・エリスは理論の活用を持つものについて説明しています。それを書きなさい。
回答	ある理論を実践の指針として利用しようという場合には、臨床での検証がどうしても必要である。そして、ある理論を臨床で利用する場合、その理論を検証できる資格を持っているのは実践専門職であり、またある特定の結果をもたらすための行動を決定するに当たって、その理論がどの程度評価されてよいのかを判断する資格を持っているのも実践専門職である。
例題9	看護実践者が看護理論を学ぶことの価値を書きなさい。

回答	自己の、あるいは自己の所属するチームの看護の意味づけができ、今後看護者が目指すべき看護の方向付けができる。
例題10	ウェズレイは看護学の理論とモデルはどのような情報を提供しているのでしょうか
回答	看護及び看護実践の定義 実践の基盤となる原理 看護の目標と機能 重要なことは、看護理論は看護に関する定義、原理、目標、機能といった情報を提供する